

## 第5学年 国語科学習指導案

は組 男子20名 女子18名 計38名

指導者 中野 晶仁

### 1 単元 すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう (教材「大造じいさんとガン」光村5年)

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第4学年の「読んで考えたことを話し合おう」の学習で、人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取り、根拠を示しながら自分の考えをまとめる能力を身に付けている。また、第5学年の「登場人物どうしの関わりをとらえ、感想を伝え合おう」の学習で、自他の考えを比較して感想を深化・拡充しようとする態度を身に付けている。さらに、作者が用いている効果的な表現に気を付けて読み、そのおもしろさを紹介したいという願いをもっている。

そこで、本単元では、登場人物の関係や情景描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる能力や、**強く印象付けられた叙述を基に物語のおもしろさを紹介しようとする態度**を身に付けさせたいと考え、単元「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう（教材「大造じいさんとガン」）を設定した。

この学習は、表現や物語の構成から作品の特色をとらえ、自分の考えをまとめて話し合う「特色をとらえながら読み、物語をめぐって話し合おう」の学習へと発展するものである。

##### (2) 指導の基本的な立場

教材「大造じいさんとガン」は、作家「椋鳩十」が、鹿児島県の栗野岳を舞台に創作した動物文学である。ガンの頭領「残雪」と狩人「大造じいさん」との間に繰り広げられる生存のための厳しい闘争を通して、大造じいさんの心情が次第に変化していく様子を、巧みな情景描写で表現している。そして、大造じいさんが残雪の行動を本能的行動と決めつけずに向かおうとする正義感・愛情や、残雪の知恵やリーダー性・仲間のために勇敢に行動する姿は、仲間意識が強まり、友達と相互の関係の中で解決方法を考えていくこの期の子どもたちに適した教材である。また、色彩表現や比喩・オノマトペ等効果的な表現の工夫が用いられており、自分の感想が作者のどの表現に強く印象付けられているのかを伝え合うことで、見方・考え方を深化・拡充するのに適した教材である。

そこで、本単元では、物語の魅力を紹介することを、単元を貫く言語活動として設定する。そして、教材「大造じいさんとガン」を、どのような観点で読み進めればその魅力を明らかにできるか考えながら読み進める。その際、身に付けた国語の能力を、好きな物語の紹介に生かすようにする。

具体的には、まず、文学の紹介についての課題意識をもたせるために、試し作りとして、自分の好きな椋鳩十の物語の魅力を紹介する文章を書かせ、うまくいったこといかなかったことを友達同士で交流しながら整理させる。また、椋鳩十の表現の工夫に気付かせるために、椋鳩十作品の並行読書を始めさせる。

次に、物語の魅力のまとめ方を学ばせるために、残雪との関わりの中で大造じいさんの心情がどのように変化しているのかを読み取らせる。そして、自分が強く印象付けられた場面の効果的な表現の工夫をその物語の魅力として感想を書かせることで、互いの感想のよさに気付かせ、自分が選んだ物語を紹介する際に必要となる観点を確認する。

さらに、並行読書してきた物語の魅力を、「印象付けられた叙述の引用とその理由の説明」「受けた印象を生かした音読」等で紹介する読書会を行い、互いに本の魅力を紹介し合うことで、読書の範囲を広げさせる。また、**試し作りと比較して、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。**

このような学習を通して得られる能力や態度は、構成・人物像・表現などに表れる物語の特色をとらえて読む能力や、読んで考えたことを友達と話し合いながら、見方・考え方を深化・拡充しようとする態度へと結びついていくものである。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想 (複数回答)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>大造じいさんに対する感想(29)〈なぜ残雪を助けたのか疑問(11)、次々に作戦を考えて面白い(5)、堂々と戦おうと呼びかけてえらい(5)、残雪を助けてえらい(4)、72歳とは思えない(3)、獲物が取れずかわいそう(1)〉</li> <li>残雪の行動に対する感想(18)〈仲間を助けてすごい(9)、知恵がある(6)、怪我してかわいそう(2)、堂々とした態度でえらい(1)〉</li> </ul>			
② 大造じいさんの変化と、その理由			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>残雪を捕まえたい・しめたい(25)</li> <li>卑怯なことを考える(6)</li> <li>厳しいおじいさん(3)</li> </ul> </td> <td style="width: 10%; text-align: center;">➡</td> <td style="width: 40%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>残雪を守りたいと思うようになった(19)</li> <li>堂々と戦おうようになった(9)</li> <li>優しくなった(6)</li> </ul> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>残雪に心を打たれたから(25)〈仲間を助けたから(15)、堂々とした態度だったから(10)〉、ただの鳥と思えなくなったから(7)、じいさんのガンを助けてくれたから(2)、無回答(4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>残雪を捕まえたい・しめたい(25)</li> <li>卑怯なことを考える(6)</li> <li>厳しいおじいさん(3)</li> </ul>	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>残雪を守りたいと思うようになった(19)</li> <li>堂々と戦おうようになった(9)</li> <li>優しくなった(6)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>残雪を捕まえたい・しめたい(25)</li> <li>卑怯なことを考える(6)</li> <li>厳しいおじいさん(3)</li> </ul>	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>残雪を守りたいと思うようになった(19)</li> <li>堂々と戦おうようになった(9)</li> <li>優しくなった(6)</li> </ul>	
③ 難語句 (複数回答)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>感嘆(16)、五俵(13)、頭領(12)、形跡(5)、英雄(4)、自在かぎ(3)、ろばた(3)、花卉(2)、りょうじゅう(2)</li> </ul>			
④ 主題について			
<ul style="list-style-type: none"> <li>生命尊重(19)、思いやり・仲間意識(9)、勇気(5)、堂々とする事のよさ(4)、無回答(1)</li> </ul>			
⑤ 「大造じいさんとガン」の魅力 (複数回答)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>内容について(25)〈大造じいさんの作戦・行動(13)、残雪を助ける所(7)、残雪とハヤブサの戦い(5)〉</li> <li>表現について(19)〈音を使っている(8)、色を使っている(7)、心情表現(2)、比喩(2)〉</li> <li>構成について(5)〈前書きの存在(5)〉</li> <li>無回答 7</li> </ul>			
⑥ 椋鳩十について (複数回答)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>知っている(11)〈著作(11)、鹿児島県にいた(3)、長野県生まれ(2)、記念館(1)〉</li> <li>無回答(27)</li> </ul>			
⑦ 図書を紹介することのよさ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>読書のきっかけ(23)、知識が増える(6)、互いの考えの交流(5)、おもしろい(3)、無回答(1)</li> </ul>			

子どもたちの多くは、登場人物に対する感想をもっているが、作品の表現について目を向けた感想はもっていない(①)。これは、「感想」を書く際に、表現に着目して書く経験が少なかったためであると考えられる。大造じいさんの変化については、残雪の行動に心を打たれたことからとらえている子どもが多いが、漠然としている(②)。これは、難語句「感嘆の声」「頭領」等の意味が分からず、教材文を正確にとらえることができなかつたためであると考えられる(③)。作品の魅力については、主題をふまえた内容についてのものが多い反面、表現・構成についてのものは少ない(④⑤)。これは、子どもたちが文章の内容と表現とを関連付けて読む経験が少なかったためであると考えられる。作者については、動物文学の第一人者である椋鳩十を、ほとんどの子どもが知らないことから、動物文学の読書経験は少ないと考える(⑥)。言語活動「紹介」のよさについては、読書の広がりについての気付きが多い反面、友達と推敲する中で考えが深まることの気付きは少ない(⑦)。

### (4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが優れた表現に着目して物語の魅力を考える試し作りから課題を見だし、友達との交流を通して読みを深めることができるよう、指導内容設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えられる。

ア 動物文学への興味・関心を高めるために、まず、作家椋鳩十の功績を取り扱ったり、動物文学作品についてブックトークを行ったりする。次に、登場人物の心情の変化をとらえさせるために、大造じいさんと残雪の関係を図でまとめる中で疑問に思うことを課題とし、行動・会話・情景描写等の叙述を基に友達と話し合い、自分の考えをまとめさせる。

イ 作品の魅力を紹介させるために、作品の中で心に残った場面を引用させる。その際、場面の様子が分かるように情景描写に注意しながら音読させ、読みを深めさせる。さらに、共通する語感や言葉の使い方の感覚・擬声語・擬態語・比喩等の表現の工夫に気付かせるために、「大造じいさんとガン」と他の文学とを比較読みをさせ、気付いたことを魅力として紹介し合うようにさせる。

ウ 学習の有用感や成就感を味わわせて今後の読みへとつなげるために、身に付けた国語の能力を振り返らせたり、日記・作文等で生かすことができるようになった表現を交流させたりする。

### 3 目 標

- (1) 読書紹介を行うことに関心をもって、椋鳩十の文学を読もうとすることができる。
- (2) 「大造じいさんとガン」と椋鳩十の他の文学を比較しながら読み、語感や言葉の使い方の感覚・擬声語・擬態語・比喩等の表現の工夫に気付くことができる。
- (3) 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、作者の優れた表現について自分の考えをまとめることができる。

### 4 指導計画（全10時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	<p>椋鳩十の書いた本って、おもしろそうだな。読んでみたいな。</p> <p>読んでみたけど、どうしたら本のみりよくを紹介できるのかな。</p>	<p><b>1~2 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し</b></p> <p>「友達に、本のみりよくを紹介しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 椋鳩十の功績や、どのような文学を創作しているのかを知る。</li> <li>・ 動物文学の魅力を紹介する文章を書き、友達と交流する。(試し作り)</li> </ul> <p>本のみりよくを紹介するためには、本をどのように読めばよいのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために、作者について紹介したりブックトークをしたりする。その際、後の読書紹介を深めさせるために、教師があらかじめ並行読書するための文学を5冊用意しておき、ブックトークに活用する。</li> <li>○ 課題意識をもたせるために、教師のモデルを示した上で本の魅力について考える試し作りをさせて、うまくいったことやうまくいかなかったことを挙げさせ、個の課題を明確にさせる。</li> </ul>
しらべる⑤	<p>心に残った場面と理由を伝えればいいのか。それだと、今までと同じだ。</p> <p>音読してみると、擬声語は音そのものを表すように読めるぞ。</p>	<p><b>3~7 限定された場面での試行錯誤</b></p> <p>「なぜ、大造じいさんは、～したのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大造じいさんと残雪との関係を読み取る。</li> <li>・ 「大造じいさんとガン」の魅力表現の工夫を観点としてまとめる。</li> <li>・ 物語の魅力を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大造じいさんの心情の変化を読み取らせるために、「大造じいさんの行動・心情描写」に着目した課題を設定し、情景描写等から心情を想像させる。</li> </ul>
ふかめる①	<p>「赤」という色は、なんだか怖そうな感じがする。声をふるわせてみようかな。</p>	<p><b>8 広い場面での試行錯誤</b></p> <p>「自分の選んだ椋鳩十作品と『大造じいさんとガン』を比較して、表現の工夫をとらえよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通する内容・表現・構成を読み取る。</li> <li>・ 試し作りと見直しの比較をしたり、友達と交流したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作者の表現の工夫に気付かせるために、限定された試行錯誤の場面では毎時間心に残った場面を引用させ、どのように音読すれば場面の様子が相手に伝わるか考えさせる。また、日頃の自分の日記と、椋鳩十の文章表現と比較させ、効果的な書き方について考えさせる。</li> </ul>
ふりかえる①	<p>椋鳩十の作品は、オノマトペが多いな。どのように読んだら伝わるかな。</p>	<p><b>9 試行（試し作り）の見直し</b></p> <p>「読書会をして物語のみりよくを伝えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書会を実施する。</li> <li>・ 学習の振り返りと自己の変容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が選択した文学の魅力が伝わるように紹介するために、狭い範囲での試行錯誤で学んだことを基に「大造じいさんとガン」と選択した本とを比較させ、共通する書き方に気付かせたり、考えをまとめさせたりする。</li> </ul>
いかす①	<p>みんなと紹介合っって、考えが深まったぞ。他の作品も読もう。</p> <p>日記の書き方は、すぐ変えられそうだ。</p>	<p>心に残った場面における語感や言葉の使い方の感覚・擬声語・擬態語・比喩等の表現の工夫を、本の魅力として伝える。</p> <p><b>10 活用場面の想起</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の文学を読む。</li> <li>・ 表現を工夫した日記・作文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書の幅を広げさせるために、自分が選択した文学ではない友達とも、互いに紹介し合わせる。</li> <li>○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために、身に付けた力を振り返ったり、読書紹介を通して考えたことをまとめて交流させたりする。</li> </ul>

5 本 時 (5 / 10)

(1) 目 標

「ぱっぱっ」「残雪です」等の表現に着目して大造じいさんの心情の変化を読み取り、心に残った場面の文章表現の工夫を、場面の魅力としてまとめることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、大造じいさんの心情の変化を想像させるために、残雪の行動描写や心情描写に着目させ、「なぜ迫力のある場面と感じるのか。」と問うことで、教材文の現在形の部分や一文の長さ等を工夫している作者の意図を考えさせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・とらえる	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習のめあてを設定する。 <b>なぜ大造じいさんは、ただの鳥に対して いるような気がしなかったのだろうか。</b>	(分) ↑	○ 単元を貫く言語活動の意識を継続させるために、これまで作成してきた「みりょくカード」を提示して作者の表現の工夫を確認したり、表現の工夫をしている友達の日記を紹介したりする。 ○ 課題意識をもたせるために、本時で扱う内容の人物関係を確認し、これまでと異なる大造じいさんの心情描写から、全体で解決すべき課題を話し合う。 ○ 課題解決の見通しをもたせるために、どのようなまとめになりそうか想定してノートに書かせる。 ○ 叙述を基に話し合わせるために、教材文の自分の考えの根拠になる部分にサイドラインを引かせ、その理由を考えさせる。 ○ より多面的な見方・考え方をもたせるために、「ともだちと」「みんなで」の時間を確保し、残雪のどのような姿が大造じいさんの心を打ったのか自他の考えを比較させたり関連付けたりさせる。 ○ 残雪の心情・性格に着目させるために、挿絵のガンとハヤブサを基にその特徴を明らかにし、行動の背景にある「仲間意識」「頭領の威厳」等に目を向けさせる。 ○ 作者の表現の工夫に目を向けさせるために、教材文の現在形の部分を過去形に直したり、一文を長くしたりした文章を提示し、どのような印象の違いがあるのか比較させる。また、心に残った部分とその理由を「みりょくカード」にまとめ、様子が分かるように音読させる。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、友達との交流を通して新たに発見したり、自分の変容に気付いたりしたことを振り返らせる。
	2 課題解決の見通しをもつ。 3 大造じいさんの心情の変化を把握する。 残雪は、元々ただの鳥ではなかったけど、さらに何かあるのかな。 <b>ひとりで考える【直感に理由付けをする】</b> 自分になついているガンを残雪が助けてくれたから、強く心を打たれたのだと思う。 【観点「大造じいさんの心情」】	7	
しらべる・ふかめる	<b>友達と比べる</b> 「ハヤブサとの戦いの場面で、普通に考えればかなわないのに戦いを挑んだ残雪の勇敢な姿」という考えもいふなあ。ぼくだったら、勇気が足りなくて、向かっていけないよ。 【観点「残雪の行動」】	28	○ 「近づく大造じいさんに対して、正面からにらみつけた」というところは、人間みたいだね。ぼくは、威厳を保とうとする姿、心を打たれて、ただの鳥とは思えなくなったんだと思う。 【観点「残雪の心情・性格」】
	<b>と み みんなと比べる</b> 比較 比較 残雪の行動や心情からも、大造じいさんの気持ちを考えることができたよ。		
ふりかえる・いかす	<b>物語の魅力をもとめる</b> 「そして、じいさんを正面からにらみつけました。」が心に残った。理由は、ガンの頭領として、人間に負けたくない気持ちが表れていると思ったから。だから、最後の力をふりしぼるように、力強く説くことにしたよ。	10	
	4 学習のまとめを行う。 残雪の勇敢な行動や仲間意識、頭領として最後までいげんをたもとうとする人間にも重なる姿に心を打たれたから。 5 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。 ○○さんに自分の考えを認めてもらったので自信になった。自分も一文を短くした日記を書いて、臨場感を表したい。		